

日本アダプテッド体育・スポーツ学会

(JASAPE) 会報

アジア障害者体育・スポーツ学会 (ASAPE) 日本部会

平成 23 年 9 月発行

学会の役割

会長 安井 友康

障害者スポーツ科学の巻頭言にも書かせていただきましたが、まずは震災で犠牲になられた方のご冥福をお祈りすると同時に、一日も早く復興を願っております。

今年は、各地の大雪に始まり、ISAPA2011 を予定していたニュージーランド、クライストチャーチの大地震、そして東北関東大震災と規模は違うものの立て続けに災害が続きました。悪い波があればきっと良い波もあるとの思いで、復興に向けて少しでも取り組んで行けたらと思います。

さて昨年富山で行われた合同大会において、会長に再選され、後2年ほど会長を務めさせていただくことになりました。まずは、皆様にあらためてご挨拶させていただくとともに、今後の運営に対する御協力を申し上げる次第です。2005年の東北文化学園での合同大会で、中田先生より ASAPE 日本部会を引き継いでから早5年が経過しました。この間2006年に ASAPE 日本部会から日本アダプテッド・体育スポーツ学会に名称変更をするともに独立した学会として規約等を整備し、日本学術会議の研究協力団体に認可、傘下の体育スポーツ連合の一員にも加わりました。2008年には公開での役員選挙を実施するなど、徐々にではありますが、組織としての基盤整備が進んで来ています。

ただかねてより、組織は新陳代謝が大切だと思っておりますので、今回規約についても一部改正させていただき、会長については、基本的に2期4年(本人の同意がある場合を除く)で、交替する形にすることで、総会にてご承認いただきました。ということで、今後もできる限り会員の皆様のニーズに合わせ、開かれた会の運営に努めるとともに、社会に向けて情報発信や社会的提言ができる組織を目指して取り組んで行きたいと思っております。

なお今年はニュージーランドで予定されていた ISAPA2011 がバリで行われることになりました。また12月には、医療体育研究会との合同大会が茨城県立医療大学で、また来年には、香港にて ASAPE が行われるなどの予定が進んでいます。いろいろと困難な状況は続くかと思われそうですが、さまざまな取り組みに挑戦することで、また新しい扉が開かれるように思います。是非協力を頂きながら、研究や実践の報告を進めていきたいと思っております。

ところで日本では「学会」というと何となく「研究の場」というイメージが強いのですが、英語では Society (社会) となります。国際学会などに参加すると「社会のコミュニティー」として「さまざまな人のつながりや情報の輪、そして社交の場」であり、「組織としての文化的伝承を含めた集まり」であることを意味していると感じさせられます。とりわけヨーロッパ社会では、長い「社交」の伝統があり、学会での研究報告以外の人的交流も学会発表と同じく、重要な機能を持つという認識を持っていることが伺われます。

日本では、ともすると自分の発表時間にだけ来て、それが終わると、つい急いで帰ってしまうようなことになりがちです。忙しすぎる日本では、それぞれの事情もありますので、それも致し方ないとは思いますが、しかし学会がまだ「文化としての学問の場」として成熟していないことの現れのひとつなのかもしれません。なんでもインターネットでやりとりができてしまう昨今、せめて「学会(研究大会)」は生身の人と人がふれ合う場として、また「研究で心を癒す」様な場として機能させたいものです。

皆様からのご意見ご感想をお寄せ頂き、より充実した学会の運営に努めていきたいと思っております。今後とも、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

第14回 日本アダプテッド体育・スポーツ学会(第12回合同大会) 富山大学五福キャンパスで開催

浅岡知希・阪本梨紗子(同志社大学大学院)

この度、初めて学会という場に参加しました。学会がどのようなところなのか分からないまま、学会という緊張感

のある場で初めて口頭発表をする機会もいただきました。発表テーマは、浅岡が「パラリンピック出場国・非出場国の社会的諸指標の特徴に関する研究」、阪本が「アテネパラリンピックにおけるメダル獲得数・参加者数・メダル総獲得数と社会的要因に関する研究」で、両テーマとも統計分析を使い、検討を行いました。統計を専門とする先生のところへ足を運び、統計ソフトと画面に映し出される数字と格闘する日々でした。夏から準備をはじめましたが、結局、発表のギリギリまで準備をすることとなり、学会発表の大変さを知りました。

学会当日を迎え、会場である富山大学を前に、ここで発表をするのかと、背筋の伸びる思いでした。1日目には、著名な先生がたのお話を聞くことができ、貴重な経験になりました。また、夜の懇親会では、普段出会うことのできない障害者スポーツを研究する大学院生に出会うことができ、お互いの障害者スポーツに対する熱い想いを共有し、刺激を受けました。

2日目は、いよいよ私たちの口頭発表の出番です。朝一の発表であり、普段は障害者スポーツを専門としている先生がたや、学生の前で発表をすることがなかったので、いつも以上に緊張したことを今でも覚えています。みなさまからの的確なご指摘には、非常に勉強になりました。

何もかもが初めてづくしで戸惑うことも多々ありましたが、緊張感あり、笑いあり、新しい出会いありの濃厚な2日間を過ごすことができました。

現在、修士論文に向けて必死に論文や文献を読んでいるところです。浅岡は、「開発途上国における障がい者スポーツ振興に関する研究—カンボジア王国のパラリンピック出場に着目して—」というテーマです。カンボジアでフィールド調査をしながら、途上国において障害者スポーツ振興に必要な要因を検討します。阪本は、「障害者の自立のためのネットワーク構築に関する研究—障害者スポーツを視座に—」というテーマです。共生社会と言われる中、障害者が社会で生きていくためには組織間の繋がりが必要で、かつスポーツをネットワークに組み込んでいくことがこれからは重要であるということを検討します。学会での出会いや得た知識を存分に生かし、みなさまに負けない情熱で修士論文に取り組んでいきたいと思えます。

最後となりましたが、合同大会の開催にあたりご尽力いただきました先生がた、学会員のみなさまに深くお礼申し上げます。

第18回 International Symposium of Adapted Physical Activity (ISAPA) 報告

ISAPA2011に参加して

竹内 亮（静岡県総合健康センター/広島大学大学院総合科学研究科）

今回のISAPAは、本来の開催国ニュージーランド(クライストチャーチ)の震災被害により、一時は中止という苦渋の決断に迫られましたが、その後フランス(パリ)での代替開催が決まり、何とか実現(7月4~8日)に漕ぎつけたという経緯がありました。私も、発表予定の演題を別の学会に出す準備を進めていましたが、パリでの開催通知が私の元へ届いたことを受けて、気持ちを元に戻して、再びISAPAへの参加に臨みました。

滞在期間中、パリの気候は暑く、気温が30度まで上昇した日もありましたが、日本のような蒸し暑さがない分快適に過ごすことができました。学会会場のパリ第10大学(通称ナンテール大学)は、パリ西部の郊外ナンテールに位置し、歴史学、地理学、文学、心理学および教育学を専攻する学生が通学しています(パリ大学は、第1~13大学までの総称)。開会式においては、ニュージーランドおよび日本における地震による被災状況が動画で紹介されました。動画を観て一瞬会場が重い雰囲気になりましたが、安井JASAPE会長による被災報告の最後には「Never give up」という発言もあり、会場は大きな拍手とともに再び式典が活気に包まれました。

ポスター発表のエントリー数は、私を含めて99演題でしたが、後から数題の追加がありました。主催者側は、ここまで演題が集まることを予想していなかったらしく、ポスター発表の時間帯が変更になるなど、何かとせわしない雰囲気ではありましたが、無事に発表を終えることができ、ホッとしています。

私の発表テーマは、「要介護高齢者に対する運動療法の効果」で、その中で体力測定等の評価を行っています。一方、他の研究者の発表では、バランス能力を評価する新しい測定方法等が紹介されており、障がいに見合った測定方法の開発がなされていた点で大変刺激を受けました。これまで「Inclusive」について、身体活動に限らず、評価にもあてはめていくことを、私自身ほとんど考えてきませんでした。今回を機会に、もっと柔軟な発想をもって研究に取り組んでいくことを心に決め、パリから帰国の途に就きました。

“Elly D. Friedmann Award”受賞報告

本学会の前会長である中田英雄先生の長年の功績に対し、IFAPA から“The Elly D. Friedmann Award”が贈られました。本賞は、アダプテッド体育・スポーツにおける、学術的な貢献とリーダーシップに対して贈られる名誉として位置づいています。中田英雄先生よりコメントをいただきました。

ISAPA2011 で思いもかけず栄えある Elly D. Friedmann Award を受賞しました。IFAPA と ISAPA への長年の貢献が受賞の対象になりましたが、貢献不足を痛感しています。JASAPE の若い会員の皆さんは、積極的に ISAPA で研究発表し、同世代の仲間と切磋琢磨し、アジアの Adapted Physical Activity 研究をリードしてほしいと願っています。

○平成 22 年度 JASAPE 総会報告

日 時:平成 22 年 12 月 4 日(土)12:30-13:00

場 所:富山大学 五福キャンパス

参加者:18 名

1. 活動報告

(1)平成 22 年度の合同大会について(安井)

富山大学を会場に実行委員長岩岡先生、富山大学水内先生らの協力で開催された。

なお JASAPE の中央企画として、インクルージョン体育に関するシンポジウムを企画した。

(2)広報

1)会報(齊藤)

2010 年の会報は、予定通り3月に発行した。その際、氏名表記の誤植があり、お詫びと修正(正誤表)を6月発行の学会誌に同封した。また、修正版(pdf)をホームページに掲載した。

2)ホームページ(増田)

平成 22 年度も、随時情報を掲載した。なお引き続き、情報があれば寄せていただきたい。

(3)国際関係(岡川)

1)IFAPA 役員会等

5 月 4-5 日に IFAPA 役員会、6-8 日にヨーロッパアンコングレスがフィンランドで開かれ、安井が参加した。内容については HP にて報告を行った。

2)ASAPE

ASAPE インドネシア大会が 8 月 6-8 日ソロにて開かれた。日本からは 10 人が参加。盛会であった。次回は 2012 年に香港にて開催予定(HP にて報告)

3)2011 年 7 月 4-8 日、ニュージーランド、クライストチャーチにて ISAPA 開催予定

2. 会計報告(安井)

会計について別紙について報告され、承認された。

3. 理事選挙の結果と承認(七木田)

新理事のメンバーについて報告された。

4. 会長の承認

理事会による選挙の結果、安井が再任されたことが報告された。また副会長については、調整の上、決定することが報告され岩岡が再任された。

5. その他(安井)

1)規約の一部改正について承認された。

2)2009 年度合同大会における追加支出について(医療体育、近藤会長、小林実行委員長)承認された。

6. 編集部報告(植木)

現在障害者スポーツ科学第 9 号編集中、さらなる投稿をお願いしたいとの報告があった。

○平成 22 年度 収支決算報告

収入の部		項目	決算	備考
		前年度繰越金	2,681,472	
		年会費(6000円)	1,030,000	
		図書館会員	15,400	
		バックナンバー(3000円)+送料	91,440	
		情報システム研究	13,860	
		利息	760	
		合計	3,832,932	
支出の部		項目	決算	備考
		事務費		
		通信費	94,300	
		消耗品費	18,628	
		振込手数料	1,260	
		第12回合同大会費	200,000	
		第11回合同大会追加支出	69,638	
		印刷製本	360,000	
		会誌 Vol.8 No.1		
		会報6号	30,000	
		選挙	18,580	
		消費税	20,094	
		合計	812,500	

* 支出の通信費のうち880円はバックナンバーの送料として希望者本人より徴収済

決算	総収入	3,832,932
	総支出	812,500
	繰越金	3,020,432

収入の部 (ドル)		収入内訳(ドル)	項目	決算	備考
		繰越(ドル)		500	
		総収入(ドル)		500	
決算(ドル)		総収入(ドル)		500	
		総支出(ドル)		0	
		繰越金(ドル)		500	

以上

○平成 22 年度 JASAPE 理事会報告

日 時:平成 22 年 12 月 4 日(土)11:45-12:15

場 所:富山大学 五福キャンパス、113 教室

出席者:七木田敦、植木章三、齊藤まゆみ、藤田紀昭、金田安正、増田貴人、矢部京之助、田中信行、金山千広、岡川暁、松原豊、近藤照彦、安井友康、

次期理事:西洋子、事務局:坪内

=====

1. 活動報告(文書による事前報告のため当日は承認のみ)

(1)平成 22 年度の合同大会について

(2)広報

1)会報(齊藤)

2)ホームページ(増田)

(3)国際関係

1)IFAPA 役員会等

2)ASAPE

3)ISAPA 開催予定

2. 会計報告(坪内)

3. 理事選挙の結果(七木田選挙管理委員長)

4. 会長選出

5. その他

- 1)規約の一部改正について
- 2)2009 年度合同大会における追加支出について

以上

○平成 22 年度 第 1 回「障害者スポーツ科学」編集委員会議事録

日 時:平成 22 年 12 月 4 日(土) 午前 11 時 40 分～12 時

場 所:富山大学五福キャンパス

出席者:植木章三(委員長)、田中信行(副委員長)、七木田 敦、藤田紀昭、岩岡研典(以上編集委員)

=====
報告事項

1.第 9 巻の投稿論文の状況について

審議事項

1. 新編集委員会について

(1)編集委員長より、新編集委員について

(2)今年度の新編集委員会における査読作業について

- 編集委員長が投稿論文の内容から、各研究領域を担当する編集委員に論文を振り分け、編集委員が会員の中から査読委員を決定する方法で進めている。
- 現在のところ作業に支障なし。

2.「障害者スポーツ科学」第 9 巻について

3. その他

- 今後の検討事項:論文の筆頭著者は ASAPE の会員とすべきかどうか

<今後の主な予定>

第 15 回 日本アダプテッド体育・スポーツ学会(第 13 回合同大会)

開催日時:2011 年 12 月 3～4 日

開催場所:茨城県立医療大学 茨城県稲敷郡阿見町阿見 4669-2

アクセス:JR 常磐線土浦駅下車、土浦駅(西口)から阿見中央公民館行バスで約 25 分、
「県立医療大学入口」下車

大会テーマとして「リハビリテーションスポーツ、アダプテッドスポーツ:そのひろがりをつながり」と題し、特別講演、シンポジウムを設定いたしました。日頃の研究や実践活動の成果をより多くの人に伝達していただき、知識や技術の交換、情報の入手を図るとともに、会員相互の交流の場として本大会が活用されることを願っております。

<Topic>

「被災地への APA 支援情報交流：公開パネルディスカッション」開催

齊藤まゆみ(筑波大学)

東日本大震災復興支援のために、JASAPE ができることは何でしょうか。情報を共有しながら一緒に考えましょう。JASAPE では、復興支援を目的としたサイトをたちあげ、被災後の情報・情報交換や支援関連情報など、会員からの情報を掲載しています。また、学会による支援活動も動き出しました。そこで、第 15 回合同大会では、公開パネルディスカッション「被災地への Adapted Physical Activity 支援情報交流」を企画として開催します。合同大会を開催する茨城県も被災地です。地震、津波、そして原発事故による影響で、体育・スポーツ活動にも少なからず影響がでています。県南地域では大規模被害はありませんでしたが、周囲を見渡すとブルーシート

に覆われた屋根、耐震強度不足のため使用禁止となった小・中学校の体育館など例年とは違う時間が流れています。公開パネルディスカッションは、12月3日(土)11時～12時15分です。みなさまの参加をお待ちしています。

また、被災地における、余暇や身体活動への支援は、心身の健康の保持に欠くことのできない活動であり、今後ますます支援の重要性が高まるものと思われます。そこでこれらの機関のスポーツ・身体活動を支援するための募金を募り、支援を行いたいと思います。

みなさまのご協力をお願い致します。募金は下記の専用口座で承ります。詳細につきましては、復興支援サイトをご覧ください。

専用振り込み口座：ゆうちょ銀行

口座名称：JASAPE 復興支援

口座番号：02710-5-46453 または 二七九店 当座 口座番号：0046453

募金金額：1000円(一口)×回数

復興支援サイト

<http://www.iwa.hokkyodai.ac.jp/~yasui/home/doc/JASAPE/fukko/index.htm>

<事務局より>

事務局が変更になりました

旧：入会・会費等 北里大学東病院 坪内友美 → 新：入会・会費等 大阪体育大学 曾根裕二
お二人からコメントをいただきました。

坪内友美

前会長中田先生の「会員を大切に」という姿勢を心がけ、務めさせていただきました。至らなかった点をお詫び致しますとともに、中田先生、安井先生、前田印刷岡野様をはじめ、お世話になった多くの方々へ心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

曾根裕二

新しく事務局を担当させていただきます大阪体育大学健康福祉学部の曾根と申します。JASAPE に関わる全ての方々が気持ちよく実践や研究ができるようにお手伝いしたいと思っています。まだまだ至らない点もありますがよろしく願いいたします。

<編集担当より>

選挙による役員改選が行われ安井会長3期目がスタートし、事務局が曾根先生へと移りました。8月には障害者スポーツの支援を明記したスポーツ基本法が施行されます。この領域の発展の中で、有意義な情報交換ができればと思っています。会報担当：齊藤まゆみ、藤田紀昭、金山千広

日本アダプテッド体育・スポーツ学会

アジア障害者体育・スポーツ学会(ASAPE)日本部会

学会事務局 大阪体育大学 曾根裕二(そねゆうじ)
〒590-0496 大阪府泉南郡熊取町朝代台 1-1 大阪体育大学 健康福祉学部
TEL:072-479-3119 e-mail:jasape5@yahoo.co.jp

ホームページ管理等 弘前大学 増田貴人
学会ホームページ <http://home.hiroshima-u.ac.jp/asape/>